

2015年3月4日

主催（公財）ミズノスポーツ振興財団

共催（公財）日本体育協会

（公財）日本オリンピック委員会

「2014年度 ミズノ スポーツメントール賞」受賞者決定

（公財）ミズノスポーツ振興財団では、（公財）日本体育協会、（公財）日本オリンピック委員会と共催で、1990年度より「ミズノ スポーツメントール賞」を制定しています。この賞は、我が国の競技スポーツおよび地域スポーツにおいて選手の強化・育成ならびに地域スポーツの普及・振興に貢献した指導者を顕彰するとともに、優秀な指導者の育成を目的に制定したものです。

3月4日（水）、グランドプリンスホテル高輪で2014年度選考委員会を開催し、受賞者を以下の通り決定いたしました。

なおこの「ミズノ スポーツメントール賞」の表彰式は、4月23日（木）にグランドプリンスホテル新高輪で行います。

【ミズノ スポーツメントール賞 ゴールド】（トロフィー、副賞200万円）

横川 朝治 氏（スキー 北野建設株式会社）

【ミズノ スポーツメントール賞 シルバー】（トロフィー、副賞各100万円）

宇津木 麗華 氏（ソフトボール ビックカメラ女子ソフトボール高崎）

河田 正英 氏（岡山県 上級コーチ（飛込競技））

【ミズノ スポーツメントール賞】（トロフィー、副賞各50万円）

高田 充 氏（テニス JOC アシスタントナショナルコーチ）

白井 勝晃 氏（体操 鶴見ジュニア体操クラブ代表）

マツエイチュク オレグ（MATSEICHUK Oleg）氏（フェンシング JOC ナショナルコーチ）

白倉 賢二 氏（群馬県 スポーツドクター）

藤巻 有久 氏（東京都 スポーツドクター）

神保 えり子 氏（神奈川県 上級コーチ（シンクロナイズドスイミング））

椿 知夫 氏（鳥取県 スポーツ少年団認定育成員）

三好 忠雄 氏（山口県 スポーツ少年団認定員（空手道））

詳細は別記の通りです。

記

名 称 : 2014年度 ミズノ スポーツメントール賞

目的及び
選考基準 : 過去継続して我が国における優秀選手の育成に努めた指導者およびその周辺の指導者、ならびに長年にわたり継続して地域スポーツの振興に尽力した指導者の顕彰

選考委員 : 委員長 竹田 恆和 ((公財)日本オリンピック委員会 会長)
委員 森 正博 ((公財)日本体育協会 副会長)
" 監物 永三 ((公財)日本体育協会 副会長)
" 泉 正文 ((公財)日本体育協会 常務理事)
" 橋本 聖子 ((公財)日本オリンピック委員会 常務理事)
" 尾崎 正則 ((公財)日本オリンピック委員会 理事)
" 上治 丈太郎 ((公財)ミズノスポーツ振興財団 副会長)
※順不同

対象者 : 国内外を問わず我が国の競技スポーツの指導者および地域スポーツの指導者
受賞者及び選考理由 :

横川 朝治 (よこかわ ともはる) 氏 48歳 (1966.5.10生)
(スキー 北野建設株式会社)

2003年に日本代表男子ジャンプ部コーチに就任、2011年からはヘッドコーチとして、日本のジャンプテクニックを世界に通用するレベルまであげた立役者である。2014年ソチ冬季オリンピックでは3大会ぶりにメダル2個(銀1、銅1)の獲得に貢献した。

【指導した主な選手】

- ・葛西紀明、東輝、宮平秀治
2003年 世界選手権 ノーマルヒル3位、ラージヒル3位、団体2位
- ・栃本翔平、岡部孝信、伊東大貴、葛西紀明
2007年、2009年 世界選手権団体3位
- ・伊東大貴、竹内択
2013年 世界選手権大会男女混合団体1位
- ・葛西紀明、伊東大貴、竹内択、清水礼留飛
2014年 ソチ冬季オリンピック個人2位、団体3位

宇津木 麗華 (うつぎ れいか) 氏 51歳 (1963.6.1生)
(ソフトボール ビックカメラ女子ソフトボール高崎)

2003年日立&ルネサス高崎の選手兼監督に就任。監督就任11年間において、日本リーグ5回、総合選手権大会8回、国民体育大会6回優勝の輝かしい成績を残す。2011年日本代表ヘッドコーチに就任した。2012年第13回世界選手権大会において、42年ぶりに優勝。2014年世界選手権で2連覇、第17回アジア競技大会(仁川/2014)では4連覇の偉業を達成した。その他、就任後4年間で2013USワールドカップ優勝、カナディアンオープン4連覇等、熱心な指導と鋭い分析力、観察力で日本チームの黄金時代を築いた。

【指導した主の選手】

- ・上野由岐子、峰幸代
2008年 北京オリンピック ソフトボール競技1位
2012、2014年 世界女子ソフトボール選手権大会1位
2002、2006、2010、2014年 アジア競技大会 ソフトボール競技1位

河田 正英 (かわた まさひで) 氏 64歳 (1950.7.22生)

(岡山県 上級コーチ (飛込競技))

昭和45年から岡山ダイビングクラブにて飛込競技の指導をはじめ、自身の選手としての経験とともに、飛込競技の強豪県へ精力的に出向き、飛込競技に関する知識及び指導技術を学び、岡山県における飛込競技の指導体制や競技環境をゼロから築き上げた。「出来ないと思えば前に進まない。出来ると思えば夢が見えてくる」を肝に銘じ、地元小学生を集め飛込教室を開催するなど、岡山県下における飛込競技の普及・強化を一手に担ってきた。長年の指導活動は、平成26年に開催された第69回国民体育大会までに、自ら指導した選手を延べ49種目に入賞させる他、選手の中には13年連続で入賞する選手を輩出するなど、着実に実を結んできた。特に地元岡山県にて開催された第60回国民体育大会(平成17年)では、出場選手4名全員を入賞に導き、その指導手腕は高い評価を受けた。現在も地域の子どもたちが参加できる体験教室の開催や競技会の企画・運営に尽力しており、飛込競技の普及、選手の発掘・育成、後進の指導者の育成とともに、飛込競技を通じて青少年の健全育成に貢献したいと日々強い信念を持ち指導活動を行っている。

高田 充 (たかだ みつる) 氏 45歳 (1969.9.26生)

(テニス JOCアシスタントナショナルコーチ)

指導者として、杉山愛、中村藍子、岩渕聡、吉田友佳、米村知子、米村明子といった日本を代表する選手たちのプライベートコーチとして活動し、2003年~2007年にかけてフェドカップ代表コーチ、2010年~現在にかけてデビスカップ代表コーチとしてナショナルチームを統率した。2003年フェドカップ・ワールドグループ復帰、2012年デビスカップ・ワールドグループ復帰に貢献。2014年デビスカップ・ワールドグループ1回戦で勝利し、現行制度初となる8強入りを果たした。同年の仁川アジア大会では、40年ぶりとなる男子シングルス金メダル獲得等に貢献した。

【指導した主な選手】

- ・岩渕聡 全仏、ウィンブルドン予選出場、全日本選手権ダブルス1位他
- ・杉山愛 ウィンブルドンシングルスベスト8、全仏、ウィンブルドンダブルス1位他
- ・西岡良仁、杉田祐一、伊藤竜馬、内山靖崇
2014年仁川アジア大会 男子団体3位、男子シングルス1位、3位、
混合ダブルス3位
- ・錦織圭、伊藤竜馬、添田豪、杉田祐一、ダニエル太郎、内山靖崇
2014年デビスカップワールドグループ ベスト8

白井 勝晃 (しらい まさあき) 氏 55歳 (1959.9.2生)

(体操 鶴見ジュニア体操クラブ代表)

日本体育大学卒業後、私立鶴見女子中・高等学校において、教諭、体操部顧問として勤めた後、鶴見総合体育研究所・鶴見ジュニア体操クラブを設立し、世界選手権金メダリストの白井健三選手をはじめ、多くの優秀な体操選手の育成と、体操民間クラブの運営を通じて、広く体操界の発展に寄与した。指導者としても、体操関係団体役員としても、体操界への貢献度は極めて高く、体操に向き合う情熱、物事に対する真摯な姿勢の土台に築かれた人望の厚さから、人格者としての評価も高い。

【指導した主な選手】

- ・白井健三
2013年 第44回世界体操競技選手権大会 男子種目別ゆか1位、跳馬4位
2014年 第45回世界体操競技選手権大会 男子団体総合2位、
男子種目別ゆか2位

マツエイチュク オレグ (MATSEICHUK Oleg) 氏 42歳 (1972.3.8)

(フェンシング JOC ナショナルコーチ)

オレグコーチの招聘後、2008年北京オリンピックでは日本フェンシング界初のメダル(銀メダル)を獲得、更に2012年ロンドンオリンピックでも銀メダルを獲得した。オレグコーチはこれまで日本にはなかった技術や戦術を取り入れるだけではなく、そこに日本人の良さをプラスすることにより、日本独自のフェンシングを構築した。また、選手とのコミュニケーションを積極的に図るなどして、トップアスリートとしての在り方や心構えを日頃から選手一人一人に伝えることにより、世界で通用する選手を育てている。現在ではシニアだけでなく、ジュニアアスリートの強化にも力を入れており、指導を受けた西藤選手が世界ジュニアランキング1位となるなど、その功績は目覚ましい。

【指導した主な選手】

・太田雄貴、三宅諒、千田健太、淡路卓、藤野大樹

2008年 北京オリンピック 男子フルーレ個人2位(太田)

2010年 世界選手権大会 男子フルーレ個人3位(太田)、

男子フルーレ団体3位(太田、三宅、千田)

2012年 ロンドンオリンピック 男子フルーレ団体2位(太田、三宅、千田、淡路)

2014年 仁川アジア競技大会 男子フルーレ団体1位(太田、三宅、千田、藤野)

・菅原智恵子

2008年 北京オリンピック 女子フルーレ個人7位(入賞)

2011年 世界選手権大会 女子フルーレ団体3位

白倉 賢二 (しらくら けんじ) 氏 64歳 (1950.3.29生)

(群馬県 スポーツドクター)

昭和61年6月の群馬県スポーツドクター協議会設立に尽力するとともに、同年に同県の県民・国体選手・トップアスリートを対象としたメディカルチェックを導入し、広く県民に活用される健康管理、スポーツ傷害予防、競技会医事運営に貢献した。

現在も同県のスポーツドクター協議会会長を務めるなど、県下のスポーツ医・科学の発展を支えている。

藤巻 有久 (ふじまき ありひさ) 氏 72歳 (1943.2.3生)

(東京都 スポーツドクター)

社会人陸上部や都民を対象とした健康相談や体力測定、国体東京都選手団のメディカルチェックなど、多様な指導活動を行ってきた。また、陸上競技関係団体、ラグビーフットボール競技関係団体及び東京都体育協会等の組織においてスポーツドクターという専門的な立場から指導・助言を行い、スポーツ医・科学の普及・発展に貢献してきた。

神保 えり子 (じんぼ えりこ) 氏 64歳 (1950.4.15生)

(神奈川県 上級コーチ (シンクロナイズドスイミング))

水泳指導者として、昭和55年から県内各地で水泳教室の指導に携わり、多くの県民に水泳を通じてスポーツの楽しさを伝授し、生涯スポーツの普及振興に寄与した。また、平成10年に開催された「かながわ・ゆめ国体」においては、シンクロ競技の運営責任者としての大役を果たし、大会を成功裏に導いた。その後、横浜市の体育指導委員も歴任し、水泳だけに捉われず広くスポーツの振興に尽力し、地元のコミュニティー形成にも力を注いだ。現在は、生涯にわたるスポーツの普及振興として、県民を対象とした水泳教室はもとより、日本赤十字社水上安全法指導員として、25年以上の長きにわたり、小学生に対し初心者水泳と着衣泳を学校で指導している。更には、同県ライトセンターにおいて、視覚障がい者に対する水泳やシンクロの指導に携わっており、まさに、障がいの有無に拘わらず、子どもから高齢者までを対象にスポーツの普及振興に力を注いでいる。

椿 知夫 (つばき ともお) 氏 60歳 (1954.9.3生)

(鳥取県 スポーツ少年団認定育成員)

長きにわたり、スポーツ少年団の指導者の中心となって活動し、鳥取県のスポーツ少年団発展に尽力するとともに、創スポーツ少年団を核として、総合型地域スポーツクラブ「あすなろスポーツクラブ」を立ち上げ、幼児から高齢者までを対象とした遊びの要素を取り入れた「運動遊び」等のプログラムを提供し、会員の豊かなスポーツライフの創造に寄与している。このクラブの特徴として、障がいのある人が活動している団体「ぼくたちのコミュニケーション」が様々なプログラムに参加することにより、両団体の会員の交流が盛んとなっている。このクラブ活動をきっかけとして、近年は障がい者の社会参加の普及のためのスポーツ活動に重きを置き、車いすバスケット・風船バレーボール・ソフトボール・マラソン・体験学習・自然保護活動等の企画、運営活動を積極的に行っている。他にも、メンタルケアアドバイザーとして、パワーハラスメント、心的障がいのある方のケア活動も行っている。

三好 忠雄 (みよし ただお) 氏 75歳 (1939.5.18生)

(山口県 スポーツ少年団認定員 (空手道))

下関市長府武道館を拠点に、乃木道場少年空手道スポーツ少年団で週2日、指導者として第一線で少年空手道の指導にあたり、実技だけでなく空手道を通じた人格形成に力を入れるなど青少年の健全育成に貢献している。また、拠点とする下関市長府武道館運営会の理事として、空手道のみならず、剣道、柔道、弓道などの他武道団体が稽古に集中できる環境づくりを心がけてきた。さらには、地元長府地区の住民が武道以外でも武道館を利用できるようにするなど、地域に根付いた武道館運営を展開し、地域スポーツ・生涯スポーツの普及・発展・振興に努力している。下関市空手道連盟では理事長として次世代を担う若手役員、指導者の指導、育成や少年空手道の活動に力を入れており、その結果空手道人口が増加するなど、山口県、下関市の空手道界の発展と振興に尽力している。長年の指導者としての実績により、昭和56年に国体監督に任命され、以来6年間監督を務めた。その間、中国地区、山口県内で開催される空手道大会において審判長、審判員として活躍すると同時に山口県空手道連盟理事に就任。以来、要職を歴任、流派会派の多い空手道をまとめるべく組織作りに努力し、現在でも副会長としてその手腕を発揮している。

※受賞者の方々の年齢は2015年3月4日現在のものです。

以上

(お問合せ先)

公益財団法人ミズノスポーツ振興財団事務局	内橋	TEL. 03 (3233) 7009
ミズノ株式会社 広報宣伝部 東京広報課	木水	TEL. 03 (3233) 7037